

(様式3)

事業所名: 認知症グループホームてととと和合

## 目標達成計画

作成日: 令和 6 年 3 月 17 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	26	利用者様の平均年齢が90歳となり、体調や状況の変化が著しくある中で、介護計画の見直しが必要となっている。定期的な見直しをふまえて、現状に即した支援、ケアに取り組む必要がある。	定期的に介護計画の見直しを確実に図り、常に状況変化に対応できるよう、随時、介護計画の見直しを図る。	計画作成者が主に家族や職員等に聞き取り、3カ月、もしくは6カ月のペースで介護計画の見直しを図るとともに、月1回のミーティング時で、利用者様の状況や、状態を職員に確認していく。介護計画の作成後は速やかに、職員と共有しながら、ご家族に同意を得て、職員全員が目標に向けて現場で実践していく。令和6年度から導入する電子化と合わせ、モニタリング等、情報収集しやすい環境を整える。	6ヶ月
2	33	利用者様の重度化、終末期に向け、ご家族に意向調査を行っているが、事業所では対応できることをより明確にし、職員同士で状況の判断、心構えを備えられるようチームで取り組む必要がある。	終末期に備えた医療的な技術、看取りについての心構え等、職員が研修、学習できる機会をつくる。	終末期、看取りに関する学習ができるように、動画による内部研修、公的機関や外部団体が主催するセミナーなどの情報を集め、短時間でも習得できるよう職員教育の幅を広げる。また、毎日の小ミーティング、月一回のミーティング時にも共有して学ぶ機会を設定する。	12ヶ月
3	35	令和5年度は防災訓練や防災点検の徹底を図っていたが、備蓄品の整備や昼夜を問わない災害時の避難訓練等、さらに充実させたい。	グループホームとしての災害時用の備蓄品を、本部や事業所内の介護支援センターに確認しながら整備を進める。様々な災害時を想定した避難訓練に取り組んでいく。	災害時の備蓄品は本部や介護支援センターと情報を共有しながら、必要な物を拾い出し、導入していく。とくに高額な物(蓄電池等)は、補助や支給制度がないか、調べて探していく。年二回の避難訓練は、今後、夜間想定訓練を取り入れる予定で、準備を進める。	12ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。複数のユニットを有する事業所において、事業所全体でユニットごとの目標の総括を行う場合は、本様式を1つ作成して下さい。